Ⅶ. 編集後記

今年度は日本が動きました。「政権交代」は流行語大賞にも選ばれました。今後、どれだけ民主党が日本を変えていくのかはわかりませんが、是非とも良い結果を導き出して欲しいと思います。明けない夜はありません。

政治は揺れ動きました。しかし、我々のゼミの伝統は揺らぐことなく受け継がれています。少なくとも私はそう思いたい。これまで先輩方が築き上げてきたものに自分達の個性を足し合わせ、後輩達にそれを伝えていく。これこそが我が岩本ゼミの伝統だと思います。輪読、グループワーク、合宿、コンパのどれを取っても、このゼミの良さが味わえると自負しています。

大学生活が終わってしまうことに悲しさを感じます。そんな中、思い出を振り返ってみると、やはり自分の中でいろんな意味で充実していたのはゼミでした。1 回生の秋頃、見学に行き、ゼミ面接を受けました。私 1 人にゼミ生全員と先生。この面接は就活の面接よりも緊張するものでした。そして先輩方の凄さに圧倒されぱなっしでした。私は 2 回生の時からかなり多くの先輩方にかわいがってもらったと思っています。先生の秘密や先輩方の経験等いろんな話が聞けて、楽しかったですし、感謝しています。

いろんな意味で個性溢れる同回生に恵まれました。時に協力し、時にぶつかり合うこともありました。自分のやりたいことに本当に正直な人間ばっかりだったので、グループワークではかなり携わった人の色が出ていたと思います。本誌に載せた論文はそれぞれがゼミで興味を持ったことや将来にわたって考えていきたいことに正面から向き合った論文になっていると思います。

4 回生になっても私はかなりゼミに行きました。そして後輩達が試行錯誤しながら、同じ目標に向かっているのを見て、非常に頼もしいと思いました。本当に自慢のかわいい後輩達です。後輩達とボーリングで真剣勝負したことや春・夏の両方の合宿に行ったことは良い思い出です。来年度からは経済学部の制度が変更になって、岩本ゼミは 3・4 回生で活動することになります。新しい風が来年は入ってこないですが、代わりに質の高いゼミ活動が期待できると思います。そして彼らがどんな後輩を育てるかは次回の青竹会までのお楽しみとしておきます。

この 3 年間、ゼミ活動を単なる授業の 1 つではなく、私の人生において掛け替えの無い時間にしてくれたのはやはり先生の存在が最も大きいと思います。勉強の面でももちろんお世話になりましたし、いろんな人生哲学も教えていただきました。真の大人になるにはまだまだ経験が足りないことを学べたのは私にとって大きな財産です。

最後に私が至らない点が多いながらもゼミ長を何とかやれたのは最高の先生、先輩、後輩、そして同回のみんなのおかげだと心の底から思います。この感謝の念とゼミでの絆と誇りを忘れずに、社会人生活を送っていきたいと思います。そして、次回の青竹会では成長した三木を披露できるように頑張ります。それでは、今日はこの辺で。

2010 年 2 月 20 日　　三木康平